

—親鸞伝の“型”となる一次資料

- ・親鸞聖人の伝記は、ひ孫・覚如上人制作の『親鸞伝絵』が基本史料
- ・『親鸞伝絵』（のち、詞書：『御伝鈔』、絵：『御絵伝』）※報恩講での「絵解き」という伝統
- ・『御伝鈔』の全段（真宗組織で語られるオーソドックスな親鸞聖人の生涯）

上巻第一段 出家学道（九歳）	下巻第一段 師資遷謫
第二段 吉水入室（二九歳）	第二段 稲田興法
第三段 六角夢想	第三段 弁円済度
第四段 蓮位夢想（八四歳）	
第五段 選択付属	<b>第四段 箱根靈告</b>
第六段 信行兩座	第五段 熊野靈告
第七段 信心諍論	第六段 洛陽遷化
第八段 入西鑑察	第七段 廟堂創立

—『御伝鈔』の記述（下巻 第四段）

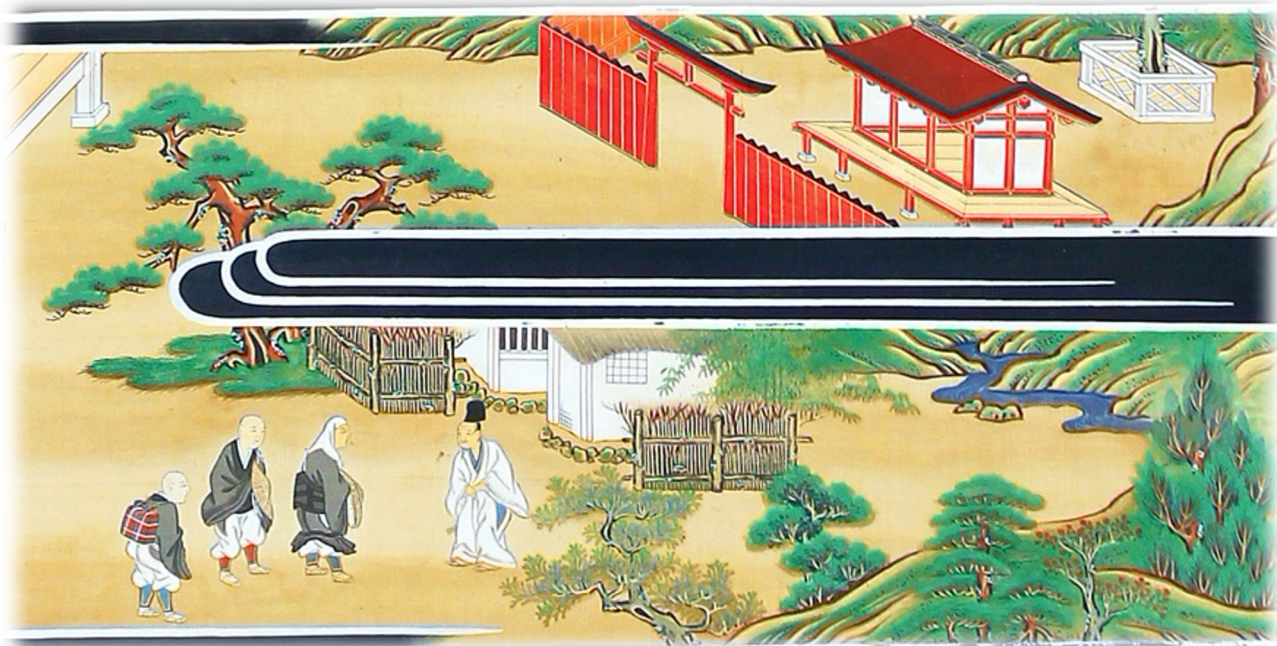
聖人（親鸞）東関の堺を出でて、華城の路におもむきましましけり。ある日晚陰におよんで箱根の嶮阻にかかりつつ、はるかに行客の蹤を送りて、やうやく人屋の枢にちかづくに、夜もすでに暁更におよんで、月もはや孤嶺にかたぶきぬ。ときに聖人歩み寄りつつ案内したまふに、まことに齡傾きたる翁のうらはしく装束したるが、いとこととなく出であひたてまつりていふやう、「社廟ちかき所のならひ、巫どもの終夜あそびしはんべるに、翁もまじはりつるが、いまなんいささか仮寝はんべるとおもふほどに、夢にもあらず、うつつにもあらず、権現仰せられていはく、〈ただいまわれ尊敬をいたすべき客人、この路を過ぎたまふべきことあり、かならず慇懃の忠節を抽んで、ことに丁寧の饗応をまうくべし〉と云々。示現いまだ覚めをはらざるに、貴僧忽爾として影向したまへり。なんぞただ人にまします。神勅これ炳焉なり、感応もつとも恭敬すべし」といひて、尊重屈請したてまつりて、さまさまに飯食を粧ひ、いろいろに珍味を調べけり。

（親鸞さまは、関東での約二十年にわたる生活に別れをつけ、京へ戻るための旅におたちになりました。ある晩のこと、箱根のけわしい山路にさしかかったとき、もうあたりには人影もありませんでした。ようやく人家らしいものを見つけたときには、もう夜もふけて、月は山のうしろに傾きかけていました。親鸞さまが、人家の方へ歩みよられたとき、どこからともなく、装いも正しい老人が現れて、うやうやしく次のように話すのでした。「この地方のならわしで、権現さまに仕える者たちが集まって、夜通し、祭りに興じておりました。私もその中にいて、さて、そろそろおいとましようかと思っていた矢さきに、夢うつつのうちに権現さまが私の前に立たれ、私が尊敬している客人が、今この道をお通りになります。だから失礼にならないように、特にていね

いにおもてなしするように、といわれたのです。そして、そのお告げが終わるか終わらないうちに、あなたさまのお姿が、突然現れたのです。あなたさまは、きっと、ただ人ではございません。神さまのお告げはうそではございませんでした。さあ、どうぞこちらへおいでください」老人は深く頭を下げて、親鸞さまをご案内し、さまざまな珍味をととのえておもてなしするのです。（『親鸞聖人伝絵－御伝鈔に学ぶ－』東本願寺出版部より）

※「光琳寺ホームページ」から全文見れます <http://kourinji.biz/>

—『御絵伝』の描写



—寺院と神社との違い

	寺院	神社
全国の数	約7万4千	約8万
聖職者（数）	僧侶 （約31万5000人）	神職 （約2万5000人）
崇拝対象	御本尊（仏像、仏画など）	御神体（鏡、剣、山など）
入口	山門・三門	鳥居
守護像	仁王像	狛犬、狐など
建築様式	土を盛った壇に建てられ、太い柱で瓦屋根を支える構造（和様、大仏様、禅宗様、折衷様など）	高床式で藁葺きや檜皮葺きの屋根に千木と堅魚木がある（春日造、流れ造、住吉造、大社造、神明造など）
参拝の作法	合掌	二拝二拍手一拝

（参考：仏教伝道協会「とってもやさしい はじめての仏教」）

## 一神仏習合に至るまでの歴史

### ◆神仏習合・・・日本古来の神々の信仰と仏教が一つになったもの

#### ①百済（いまの韓国）から仏教が伝来（538年）

日本古来の神々と仏教の仏は、どちらの方が尊い、御利益があるの！？という議論。

↓

蘇我氏（崇仏派）と、物部氏（廃仏派）の争い

→蘇我氏の勝利・**仏教の優勢**へ。聖徳太子が仏教の教えをもとに政治を行う。

→皇室の先祖は天照大神である。それまでの神々はどうなるのか・・・？

#### ②奈良時代（710～784年）

神々は仏の教えを喜び、尊敬するもの、という考え方。神々は仏や仏の教えを守る役割。

↓

神社に付属する寺の建立（＝神宮寺）や、寺に付属する神社の建立。

※奈良の興福寺、春日大社が初めて

#### ③平安時代（794～1185年）

日本古来の神々は、もともと仏教の仏や菩薩だったという考え方に発展。

↓

仏教を広め、人々を救うために神に姿を変える（神と仏はおなじもの）＝**本地垂迹説**

→明治まで続く。

インドですでにヒンドゥー教の神々を取り入れているなど、仏教にはそのような性質が本来あった。

#### ④明治維新（1868年）→「神仏分離令」の発布。**神道の優勢**へ→**国家神道**

廃仏毀釈の動きが全国で起こり、多くの仏像や寺院が破壊されるなど日本の仏教は危機を迎える。

→多くの僧侶の努力によってこの危機を乗り越える。一方で、靖国神社が作られるなど、国家と神道は強く結び付く。

昭和20（1945）年、太平洋戦争で日本は敗戦。

GHQ（連合軍総司令部）によって「神道指令」（通称）が出され、国家神道が廃止。

昭和21（1946）年には日本国憲法が発布され、国家による一切の宗教活動は禁止される。

→「**政教分離**」。現代にいたる。

以上